

# 英語スピーチコンテスト

## 〈第 28 回愛知県高等学校英語スピーチコンテスト尾張地区大会〉

令和 3 年 9 月 18 日 (土)

台風 15 号の接近により大会の延期が危ぶまれたものの、当日はその心配はなくなり、穏やかな天候の中、スピーチコンテストが開催されました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延により実施されていないため、2年ぶりの開催となりました。

本校からは2年4組吉永麗さんと1年4組福留そらさんの2名が出場。夏休み前から担当教員と話し合い、ALT の先生にもスピーチ指導を受けながら、三稜祭準備期間中や課題考査中と忙しい時期でしたが熱心に練習に取り組んでいました。

2年生の吉永さんは、幼少期に行ったタイへの家族旅行にて出会った、タイの人々の笑顔について、「優しい笑顔は世界共通言語」(A warm smile is the universal language)というタイトルのスピーチを発表しました。タイには13の笑顔があり、その中でも失敗をしたときにするという「開き直りの笑顔」(Sheepish smile)を中心に話題を展開し、異文化理解の奥深さと笑顔の大切さ、そして自分の夢へとつなげていきました。



ALT の Shamraiz 先生と練習をする吉永さん



ALT の Shamraiz 先生と練習をする福留さん

1年生の福留さんは「迷い猫を減らすために」(To save stray cats)というタイトルで、TNR アクティビティの紹介をしました。福留さんが現在飼育している猫も捨て猫であったことから、殺処分されてしまう猫の数を減らしたいという強い思いを発表してくれました。

残念ながら、今回は入賞できませんでしたが、当日の発表は二人とも堂々としており、練習の成果をしっかりと発揮することができていました。

会場では参加者同士の間隔が広くとられ、また発表者の前方に飛沫防止のスクリーンが置かれるなど感染症対策を十分に取られた上で実施されました。マスクにより表情が見

えづらい状況ではありましたが、本校の生徒はもちろん、参加者全員、工夫をしながらスピーチ内容を届けることができていたように思います。

メッセージが伝わりにくい状況で、どのように相手に訴えかけるか、例年以上の努力が必要でした。だからこそ、今回の参加で学んだものは非常に多かったと思います。

大会後には、「入賞できなかったことは残念でしたが、とても良い勉強になりました」と二人が笑顔を見せてくれました。相手に伝わる英語とは何かを真剣に考え、向き合った二人の時間はかけがえのないものです。今後、授業ではもちろん、大学、社会に出てからも、今回学んだことを生かしてくれると思います。



福留さん(左)と吉永さん(右)

岩倉総合高等学校にて